

# 妨害機の導入

susan12

## gps 妨害と称する装置を取り付ける

携帯電話のシステムでは、通話の有無にかかわらず、端末（携帯電話機）と基地局が定期的な通信を繰り返している。これは端末の現在位置を、システムが常に把握できるようにするための仕組みです。コンサートホールなどの施設で[妨害機](#)の導入が進んでいます。これは施設内に「圏外」を作り出すことで、着信音などの迷惑を防ぐ装置です。コンサートの観覧中にうっかり携帯電話を鳴らせてしまい、ヒヤリとした経験はないだろうか。着信音を会場中に響かせてしまい慌てることになる。このようにモラルだけで「うっかり」に対応することは難しい。

会場内を「圏外」にするという方法だった。会場内で携帯電話の通信ができなければ、電話やメールが着信することもないので、着信音が鳴ることもない。これなら携帯電話の電源が入ったままでも問題がない。まず携帯電話の仕組みを知る必要があります。携帯電話の通信を妨害するので、場内にある全ての携帯電話の着信音が鳴ることを、確実に防止することができます。業や家庭内のセキュリティ対策のため、[gps 妨害](#)と称する装置を取り付けるケースが見られています。



「通信機能抑止装置」は、携帯電話が使用すると、ほぼ同じ周波数帯の電波を発射することにより、装置を設置した周辺で、携帯電話が使えないようにする装置のことです。振込詐欺で、被害者を銀行のATMまで誘導し、被害者と携帯電話で通話しながらATMを操作させ、お金を振込ませることを防ぐためです。振り込め詐欺による被害が跡を絶たない。振り込め詐欺とは、いわゆるオレオレ詐欺（親族を装った電話をかけて様々な名目で現金が至急必要であるか特定の空間に限定して携帯電話を「圏外」にする機能を持った[WiFi 妨害機](#)の活用である。つまり、ターゲットとなるエリアにおいて携帯電話を強制的に使用不可にすることにより「ついうっかり」による携帯電話の“電源の切り忘れ”という懸念材料を排除することができます。

抑止電波の周波数は少なくとも携帯電話で使用している周波数帯全域あるいは一部と同一周波数

である必要がある。生活をととても便利にしている携帯電話やスマートフォンですが、コンサートホール、劇場、学校、病院で使用すると、マナー違反となることもあります。[GSMジャマー](#)を発売する三精輸送機（大阪）テクノサービス部の仲辻猛士さん。サイレントマスターは「電波をもって電波を抑える」機械だ。携帯電話と同じ周波数の電波を発することで、携帯電話の発着信を防ぐことができる。大半の携帯電話の電波は、心臓ペースメーカーの誤作動を招く恐れがあるとされる。着信音を阻止するために、電波抑止装置を買ってみようかしらと思っても簡単にはいかない。実際の使用には免許が必要になります。